

イタリア与党のお家騒動

発表日：2017年2月23日(木)

～出るか出まいか、それが問題だ～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理

03-5221-4527

◇ 党内争いが表面化しているイタリアの与党・民主党では、反レンツィ勢力が数十人規模で離党すると
の観測が浮上している。民主党離党者が左派新党を旗揚げすれば、10%前後の支持を獲得すると
の世論調査もある。その場合、民主党が支持を落とし、反体制派の五つ星運動が次期総選挙で第1
党となる可能性が高まる。ただ、五つ星運動が第1党となっても他党が協力しない限り、政権発
足は困難だ。他方、民主党が分裂し、左派新党が連立に参加しない場合、民主党政権の発足も困
難となる。民主党の分裂により、総選挙後のイタリア政局の不透明感が一段と増すことになる。

イタリアの与党・民主党が分裂の危機にある。レンツィ前首相が2013年にフィレンツェ市長から民主党
の書記長（党首）に就任し、その翌年に当時のレッタ首相に辞職を迫りイタリア首相の地位に上り詰めて
以来、民主党は支持母体である労働組合からの反発を他所に労働市場や議会制度の改革に着手してきた。
こうしたレンツィ体制下での党の中道路線への傾斜に反発する勢力は、伝統的な左派政党への回帰を求め、
レンツィ前首相に反旗を翻している。レンツィ前首相は、昨年12月の国民投票が大差で否決された責任を
取り、首相を辞任した後も党書記長の座に留まり、首相返り咲きの機会を窺ってきた。自身の影響力が低
下する前の早期の解散・総選挙を求めてきたが、党内の反レンツィ勢力がこれに反対。意見集約が困難と
判断したレンツィ前首相は19日に党書記長を正式に辞任し、当初12月に予定されていた党大会を4・5月
頃に前倒しして党首選を行ない、自身も出馬する意向を伝えた。

来年春の議会任期満了と近い将来の総選挙を控え、党書記長は比例名簿への掲載順序を通じて所属議員
に影響力を行使することが出来る。レンツィ首相の狙いは、書記長再任を通じて党内の不満分子の影響力
を削ぎ、早めの解散・総選挙で首相に復権することにある。書記長選でレンツィ前首相に代わる有力な対
抗馬はいないとされ、数十人単位の反レンツィ派議員が民主党を離党し、新たな左派政党を立ち上げると
の観測が浮上している。民主党の分裂は次の総選挙にどういった波紋を引き起こすことになるのだろうか。

現在、与党・民主党と反体制派の野党・五つ星運動が次期総選挙での第1党の座を巡って接戦を繰り広
げている。昨年6月の地方選で五つ星運動出身の市長が誕生したローマでの市制混乱、市長側近の汚職事
件での逮捕、市長の職権濫用疑惑が響き、五つ星運動の支持がやや低下しているが、民主党との差はごく
僅かだ。民主党離党議員が新党を旗揚げした場合、8.5～10%の支持を獲得し、代わりに民主党の支持が6
～7%ポイント低下し、五つ星運動の支持が1～2.5%ポイント低下するとの調査もある（表）。民主党の
中道化で五つ星運動に流れた左派層の一部が新たな左派政党支持に回るとみられるが、党分裂によって最
も支持を失うのはやはり民主党となりそうだ。離党者の規模、有力議員の動向、新党の掲げる政策など不
透明要因も多いが、民主党と五つ星運動の支持が逆転し、五つ星運動が第1党となる可能性が高まる。

もっとも、次の総選挙がどういった選挙制度の下で行なわれるのかは引き続き流動的だ。1月下旬に憲法裁判所が下院選挙制度の二回投票制を無効とする判決を下したが、①40%以上の票を獲得する政党が現れれば54%のプレミアム議席を配分し、残りの議席を3%以上の票を獲得した政党で比例配分する、②40%以上の票を獲得する政党が現れなければ、3%以上の票を獲得した政党で議席を比例配分する制度は、新たな立法を待たずに有効であるとの見解を示した。他方、現在の上院の選挙制度は、8%以上の票を獲得した政党で議席を比例配分、他党と連立を組む政党については単独で3%以上、連立全体で20%以上の票を獲得した場合に議席を獲得する。議会の解散権を持つマッタレラ大統領は、上下両院の選挙制度が食い違い、選挙後の安定政権の樹立が困難な限り、議会を解散しないことを表明している。憲法裁判所の判決を受け、上下両院の選挙制度にそれほど大きな差はなくなったが、大統領がどのように考えているかは伝えられていない。議会は2月下旬にも選挙制度を再改正するか否かの検討を開始する。

昨年12月の国民投票が否決されたため、政権発足には上下両院で過半数に基づく信任投票が必要となる。仮に下院が憲法裁判所の判決に沿った選挙制度で、上院が現行の選挙制度で総選挙を行なう場合、五つ星運動が第1党になった場合も政権奪取への道のりは険しい。具体的にみると、民主党の分裂を追い風に五つ星運動が支持を上積みし、下院で40%以上の票を獲得すれば、下院の過半数を制することが出来る。一方、プレミアム議席のない上院では50%以上の票を獲得しない限り、過半数の議席を獲得することは出来ない。ただ、下院でプレミアム議席を獲得できるほど支持を上積みする状況下では、上院で他党が五つ星運動との連立に応じる余地も出てこよう。五つ星運動は今のところ他党との連立に否定的だが、政権奪取が手の届くところであれば前言撤回の可能性もあるとみておくべきだ。

他方、分裂後の民主党が左派新党と連立を組むことも考えられる。前述の世論調査が示唆する通り、五つ星運動に流れた有権者の一部が左派新党支持に回ることを考えれば、民主党と左派新党の合計獲得議席は党分裂前の民主党を上回る計算となる。過半数確保に協力することで、政権運営に一定の影響力を発揮できると考えれば、左派新党が民主党主導の連立に加わる可能性はある。逆に、民主党主導の政権に加わることで、伝統的左派層の期待に応えることが難しいと判断すれば、左派新党は政権から距離を置くことが考えられる。その場合、民主党が政権発足に必要な過半数の議席を確保するのは難しい。ベルルスコーニ元首相が率いる中道右派のフォルツァ・イタリアや現政権を支える小規模の中道政党に加えて、移民排斥を掲げる欧州懐疑政党の北部同盟などの協力を仰がなければ、過半数には届きそうにない。

(表) 民主党の分裂有無によるイタリアの政党別支持率 (%)

	IPR調査		TECNE調査	
	民主党が分裂 しない	民主党が分裂 する	民主党が分裂 しない	民主党が分裂 する
民主党 (PD)	29.0	22.0	29.0	23.0
民主党離党者が旗揚げする新たな左派政党	—	8.0	—	10.5
五つ星運動 (M5S)	28.0	27.0	30.0	27.5
フォルツァ・イタリア (FI)	13.0	13.0	13.0	13.0
北部同盟 (LN)	13.0	13.0	13.0	13.0
イタリアの同胞 (FdI)	5.0	5.0	5.0	5.0
新中道右派 (NCD)	3.5	3.5	2.0	2.0

出所：scenaripolitici.comより第一生命経済研究所が作成

以上